

# 素流協 News

平成16年12月25日  
第8・9号

平成16年12月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227

## 組合員意見交換会開催される

去る十二月六日午後一時半から農林会館会議室において、岩手県素材流通協同組合主催による「組合員意見交換会」が開催された。

出席者は、素流協組合員十六名であった。この意見交換会開催の趣旨は、素流協設立以来一年半を経過したが、今後一層の計画的・安定的な事業実行を促進するため、組合員各位からこれまでの事業実行過程で発生した問題点や改



善事項を提出してもらいながらそれらの題材について自由に意見交換を図ることである。ただ、この意見交換会における議論があまり拡

散しないように、事務局の方からあらかじめ議論の素材となる幾つかの資料と議題の大纲を示された。資料として次のものが提出された。

(1) 素流協出荷実績について…平成十五年四月～平成十六年十月



までの月別、樹種別、出荷先別の数量の表とグラフ。

(2) 素材生産量等実態調査について…これは、素流協組合員各位に対して前もって調査票を送付して、平成十五年度における立木購入量・素材生産量を回答してもらったものである。

(3) 会員の要望事項について…これは、会員各位が素材生産事業を実施する上での要望・留意事項と素流協の事業に関する要望事項と出荷先に対する要望事項について提出してもらったものである。

また、意見交換のテーマとして、大項目として「原木輸送のコストの低減化方策について」を挙げて、これを次の小項目に分けて提起した。

- (1) 合板輸送用トラックの戻り空荷車の有効活用について
- (2) 直送方式の徹底化とストックヤードの適正な配置
- (3) 山元における原木の選別機能の向上方策

参考資料については、素流協事務局から説明し、これに対し出席会員から質問・意見が述べられた。

その内容の要約を述べると「素流協出荷実績」については、平成十五年度出荷実績は、約二万六千立方mで計画量三万六千立方mに対して七二%の実行率であった。

平成十六年度については四月～十月の累計実績が三万六千五百立方mであり、月平均五千二百立方mとなるので、このペースを維持すれば平成十六年度事業計画量の四万九千六百立方mを達成することが見込まれる。

次に、素材生産量等実態調査については、回答率五四%であった。

回答があった会員各位の総計について見てみると、立木購入量が針葉樹・広葉樹計で二十二万三千立方mであり、そのうち針葉樹が七六%を占めている。また、素材生産量は、針・広合計約三十四万六千立方mで、そのうち針葉樹が八四%であった。立木購入量と素材生産量にかなりの差異があるのは、

前年度から持ち越しの立木を持っていたり、委託生産分も含まれていると考えられる。

会員からの要望事項については、その主なものを上げると、

・ 安定的な価格の維持に努力して欲しい。

・ 丸太の品質向上のための会員に対する指導を徹底して欲しい。

・ 木材を安定的に供給できる販路先の拡大に努めて欲しい。

・ 県産材証明制度について必ず加入する必要があるのか、詳しい説明が必要である。

・ 販路先の土場の荷下ろしが容易になるような仕組みを考えてほしい。

・ 国産材の積極的な活用について考えて欲しい。

次に、意見交換テーマについてであるが、原木輸送コストの低減化方策についてのうち、「合板輸送用トラックの戻り空荷車の有効活用」については、素流協事務局が調査したところ、合板輸送用トラックの荷台は合板製品のみを積

載するよう装置化されており、丸太を積載するには大幅な改良が必要であることが分かった。現時点では前向きに検討する事項ではないことを説明した。これには意見がなかった。「直送方式の徹底化とストック・ヤードの適正な配置」については、

・ 素材単価や仕分けの必要性の有無等を考えると、直送方式の効率化を追求する必要がある。

・ トラックの積載量と搬送距離の長短によって、中間土場(ストック・ヤード)の設置とトレーラーの活用の方法も考えられる。

・ 組合員によっては、家用用運搬車を活用する場合も多い。

・ 素材の運搬方法は、いろいろな条件が絡み合っている状況を十分に考慮して、条件ごとの最適な方法を今後も追求していく。

等々の意見が出された。「山元における原木の選別機能の向上方策」については、

・ 素流協を通じて供給している素材の規格は、長さが一・九五m

と四・〇mのみであること、および品質についての難しい制約が少なくことから、山元における選別の簡素化について検討の余地がある。

・ 山元における検知業務の簡素化についても検討する必要がある。

・ 合板工場向けの素材が多く出さうな伐採箇所では、立木の全てを長さ一・九五mと四・〇mに伐つて丸太の選別・検知を簡素化するシステムを考えてみることも一法であろう。

・ 合板用原木の品質については、緩やかな基準であるからこそその基準をしっかりと守らなければならぬ。素流協としては、厳しい指導をするべきである。等に要約される。

今回の組合員意見交換会が初めての開催であったので、提出資料が多かったこともあって説明時間が長くならざるを得なかった。次回には、出席者の意見が出て活発な議論が興るよう工夫が必要であろう。

# お知らせ 意見交換会了承事項より

十二月六日に開催いたしました組合員の意見交換会において説明し、了承された事項は次のとおりですのでお知らせいたします。

一、原木取り引きに関する協定書の締結について

現在、合板工場は、補助金を導入して県産材を効率的に加工・処理するための機械の増設を計画しており、この機械が計画通り設置されるならば当素流協にとって、将来にわたって原木の安定的取引と数量増加が可能になります。そこで、素流協としても当該合板工場に対する機械設置に係る国庫補助事業の採択が切に望まれます。ついては、当該補助事業の採択条件である原材料の確保を担保するための資料として、組合員各位と素流協、そして素流協と合板工場との間で「原木安定取引協定」を結ぶことにいたしました。

場に対し、前もって取り決めた一定量を五年後に供給することを約するものであります。組合員各位にしましては素流協より数量を記載した協定書を後日郵送いたしますので「乙」欄に記名押印をお願いいたします。

二、締切日の変更について

従来より月末締めにて支払いの集計を行ってまいりましたが、締め日から送金日までの期間が短いため、請求書の作成および支払い送金業務等々の業務量が出荷量の増加とともに増大し、合板工場側からも締め日の繰り上げを求められておりました。そこで十二月度より締切日を二十五日に変更致しますのでご協力をお願いいたします。

三、新書式の引渡材送り状について

現在お手持ちの送り状がなくなりましたら、自然切り替えにより新書式の送り状に変わります。これは県産材認証制度と合板工場のグリーン購入法に対応するものであり、丸太の出材場所（市町村単位）と丸太の伐採種（主伐・皆伐、皆伐以外は間伐）の記入欄が新たに追加されました。

そこで、現在使用中の送り状につきましても、日付けの下の空白に「出材場所」（市町村単位）と「皆伐」あるいは「間伐」と手書きでの記入をお願いいたします。

また、出荷者毎の丸太を判別できるように使用木材チョークの色を記入する欄も設けましたので、自分の材に責任を持つよう、ご記入をお願いいたします。

四、送り状の記入時の注意事項

①受け入れ先工場名に○印がなかったり、樹種名が記入されていない送り状が時々見受けられますので、必ず記入してください。

②本数の欄はFAXのために読みにくくなりやすいので、はっきりと記入してください。ま

た、数字の判別にも役立ちますので小計、合計の欄も本数を必ず記入してください。

## 今月のトピックス

### 北日本プライウッド(株)より

#### ロータリーリース更新

北日本プライウッド(株)では、国産材丸太の使用量アップのため、ロータリーリース更新を計画し工事中でしたが、十一月十日完成しました。

このことにより、今後の国産材丸太の使用量は月間一、五〇〇立方mから二、五〇〇立方mと飛躍的に増量する体制が整ったことから、素流協会員からの丸太出荷に大いなる期待が寄せられております。



## ヒロシの独白

『現下のおが国における  
森林・林業を考える』

さて、またまた身に余る大きなテーマについて、独断と偏見と誇られることを覚悟して「独白」を試みてみようと思う。

標記のテーマを「森林およびその森林を対象とする林業とはどのようなものか」、「森林」を現代の人々はどうのように認識しているのか、「森林の持つ、経済外効果」の重要性について」に分けて順次述べてみる。

◎森林および森林を対象とする林業とはどのようなものか

森林とか林業というものは、まず「極めて地域性の強いものである」ということをきちっと認識することが大切であります。よく「動かざること山の如し」と言われるが、山とそこに生育する森林は動きません。そして森林は、その大部分が農山村地域に存在しております。極論すれば、都会に森林はない。都会にあるのは公園の林や街路樹や庭木だけと言ってよい

と思う。一方、森林は農山村地帯に所在するとともに、その森林を対象として林業が営まれているわけで、このことから「森林・林業は、農山村地帯に立脚した極めて地域性の強いものである」、すなわち、農山村という特定の地域を舞台にして展開される事象である、といえます。

この「地域性が強い」ということの意味するところは、森林を守り育てる仕事の担い手（林業従事者）がその地域に居住する地元の人々であるということをも指しております。常日頃から森林を肌で感じるように接し、健全な森林を造るために手入れと維持管理をしているのは、そこに住む人々であります。このごく当然な事実を認識しない人が都会にいかにか多くいることか、まことに慨嘆せざるを得ません。森林は、人手をかけずに黙っていても健やかに成長するモノと考えているのかもしれない

ん。

「森林・林業とは、どのようなものか」ということについては、人によっていろいろな考え方や定義の仕方があると思いますが、私は次のように考えるのであります。

私たちが生活する人間社会において発生する問題を解決するために着目する要点は、まず「場所」があつて、そこに「人」が居て、そして場所と人が関わり合つて「もの（事象）」が生産されたり発生したりするということであり、この「場所」と「人」と「もの」との間に生ずる種々の問題が適切に処理されることが重要であり、この三者間の関わり合いや相互間の働きかけや流れがしっかり連動して円滑に機能していることが、私たち人間にとって極めて大切なことでもあります。そこで、森林・林業を考える場合に、農山村地域という場所に、その地域に住む人々が居て、その場所と人々

の間の密接な関係から生み出される存在が「森林」だという基本的な認識から出発しなければならぬと思います。森林は、その地域の土地と地元住民との間の長期間にわたる相互の関わり合いによって造り出され、維持管理され、森林そのものと森林から産出される木材が適切に利用されるという存在であり、土地と人との関わり合いによる森林の造成・維持管理や森林空間の活用とそこから産出される木材の利用という一連の活動・行為が「林業」であります。重ねて言いますが、私は、農山村地域と語り「場所」とその地域に居住する「人」とこれら両者の関わりから造り出される森林という「もの」の間の円滑な相互関係が「森林および林業」の基盤であり、骨格であり、原型であると考えます。この「地域性の強い森林・林業の基盤・骨格・原型」という特質を十分認識した上で、「わが国の森林・林業はどうあるべきか」を論じなければ、現在、森林・林業が抱える問題や課題に対する的を射た解決策や処方箋は出てこないし、仮に出てきたとしてもそれら解決策等は、隔靴搔痒の感を免れないであります。何故そうなるか

# 10月、11月の出荷実績

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の二社に出荷した合板用丸太の販売実績は、十一月末実績で三万六千立方mとなっております。(年間計画に対し七三%)

これから本格的な冬山生産の時期となり出荷量の増量が期待出来ることから年間計画量四万九千六百立方mの達成に益々明るさを増しております。

## 10 月 分

項目	長級	径級	販売先		計	累計	出荷割合	
			ホクヨー プライウッド	北日本 プライウッド			樹種毎	樹種毎
樹種	m	cm	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	%	%
スギ	1.9	14上	528	764	1,292	9,316		58.1
	4.0	14上	395	283	678	6,716		41.9
	計		923	1,047	1,970	16,032	49.8	100.0
カラマツ	1.9	14上	1,218	135	1,353	11,225		94.0
	4.0	14上	125	11	136	717		6.0
	計		1,343	146	1,489	11,942	37.1	100.0
アカマツ	1.9	16上	447	279	726	3,559		91.6
	4.0	16上		22	22	326		8.4
	計		447	301	748	3,885	12.1	100.0
サワグルミ	1.9	20上	24		24	331	1.0	100.0
合計			2,737	1,494	4,231	32,190	100.0	100.0

## 11 月 分

項目	長級	径級	販売先		計	累計	出荷割合	
			ホクヨー プライウッド	北日本 プライウッド			樹種毎	樹種毎
樹種	m	cm	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	%	%
スギ	1.9	14上	676	584	1,260	10,576		59.4
	4.0	14上	170	356	526	7,242		40.6
	計		846	940	1,786	17,818	49.6	100.0
カラマツ	1.9	14上	961	343	1,304	12,519		94.6
	4.0	14上	3		3	720		5.4
	計		964	343	1,307	13,239	36.8	100.0
アカマツ	1.9	16上	267	407	674	4,233		92.6
	4.0	16上		12	12	338		7.4
	計		267	419	686	4,571	12.7	100.0
サワグルミ	1.9	20上				331	0.9	100.0
合計			2,077	1,702	3,779	35,959	100.0	100.0

というところ、先に述べた「森林・林業の基盤・骨格・原型」がどこにあるか忘却されているからであります。こんなことを言うとき、ある人たちは次のように厳しく反論するであります。『森林・林業が農山村に立脚すること、担い手としての地域住民の社会的・経済的地位の向上の重要性について十分に認識されているから、そのことについて森林・林業関連法律等にしっかりと位置づけられ、必要

に依りて改正されるとともに具体的な施策として推進されている。』との反論の中にある諸々が隔靴搔痒であるというものであります。一つだけ例示をしてみましよう。森林・林業におけるボランティア活動の位置付けほど不明瞭なものはないと考えております。そのため、わが国の森林の整備は、ボランティア活動推進者たちの活動に期待するといった宣伝がなされ、森林・林業についてよく知ら

ない世の人々はボランティア活動によってわが国の森林の維持管理は万全であると考えてるかもしれない。しかし、私は、森林の整備や維持管理についてボランティア活動によって実行できる仕事はほとんどないと思う。『森林整備はボランティア活動によって』といった風潮が農山村地域の林業人に与える影響が気にかかるのであります。事実、地域の人の中には、

「どうぞご勝手にやってください。」  
「森林および林業とはどういふものか」を考へる場合、森林・林業の地域性に立脚した基盤・骨格・原型を忘れないことであります。でも後始末は嫌ですよ」とそっぽを向いたり、無関心を装ったりする者がいるのであります。森林・林業の基盤・骨格・原型を忘れた施策もこのような風潮を後押ししていなければいいが……。

おめでとうございます

(株)昭林が

林野庁長官表彰

本組合の組合員である(株)昭林(石川勝也社長)が東北森林管理局の年間多量買受者の部で林野庁長官表彰を受けられました。おめでとうございます。



編集後記

▽十二月も中旬になってから、めっきりと冬めいた感じになってきた。それまで例年になく暖かい日が続いたので、ちよつと温度が下がっても老骨にしみて応える。木材価格が上がれば懐が温かくなり、そして熱燗で身も暖まるのだが……。

▽去る十二月六日に開催された組合員意見交換会は初めての試みだったが、十六名の組合員が出席参加してくれ、いろいろ貴重なご意見をいただいた。次回は、より充実した意見交換会になりますよう事務局に今からお願ひしておこう。

▽今回の「ヒロシの独白」は、本人がことわっているがまさに独断と偏見に満ちた内容である。しかるべき所からイチャモンがつかなければいいのだが。ポラントイア団体も黙ってはいないかもしれないネ。